

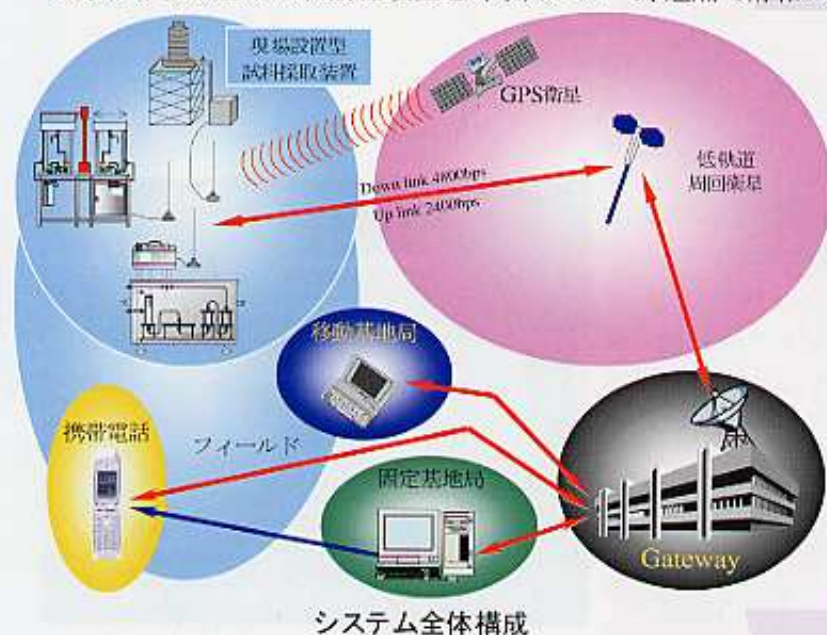
# 遠隔監視システム

## ■ システムの概要

ダイオキシン類等の一部の化合物は、微量で発ガン性や生物のホルモン攪乱作用があることが疑われています。各種環境中のこれらの濃度を調査することは、化学物質の環境動態の解明やヒトを含めた生物へのリスク評価に大変重要で、そのためには超微量分析が不可欠となってきます。

環境中のダイオキシン類等の化合物濃度は通常低く、精度良く定量するためには、長期間のサンプリングが必要となる場合があります。

当社では、超微量分析に伴う精度管理は分析に伴うものだけでなく、サンプリング段階から取り組まなければならないと考え、現場設置型の試料採取装置(ダイオキシン類用のローボリウムエアサンプラー、大気降下物試料採取装置、現場型水試料濃縮装置を対象)について、遠隔で情報の監視・記録が可能なシステムを開発しました。



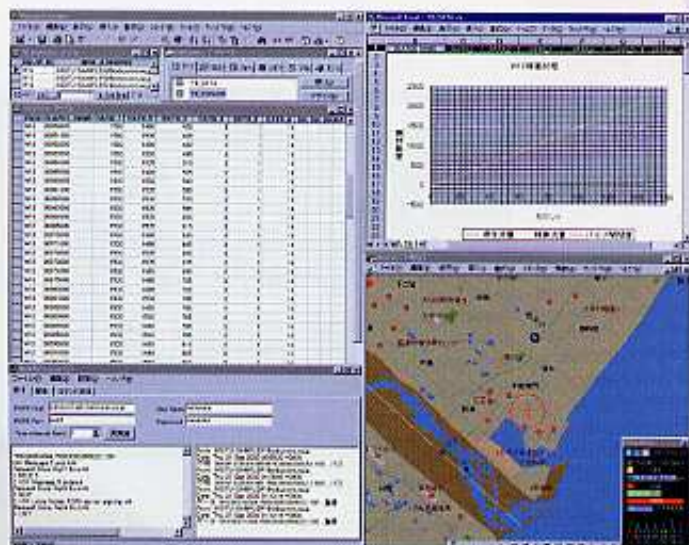
## ■ システムの特徴

### ① データ送信機

通信エリアが広域であるため山間部や海域など調査機器をどこに設置してもデータを送信することができます。また、遠隔地から機器を制御することができるため夜間現地まで行かなくても緊急時の対応をすることができます。データの送信機として携帯電話にも対応しています。

### ② 基地局ソフトウェア

カスタマイズが容易になっているためさまざまな調査用機器に対応できます。



基地局画面構成……機器設置場所と時系列の調査履歴を表示し、機器の動作環境を送信できます。

## ■ システム導入のメリット

- 細かい時系列における調査履歴の記録ができます。
- 人では不可能な時間間隔で点検ができます。
- 調査の同時刻一斉スタートや一斉終了ができます。
- 位置検出(GPS)とマッピングによる機器設置場所の確認ができます。
- 機器をID番号で管理するため間違いがありません。
- 緊急時エラーの検出による迅速な対応が可能です。